

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

資料1

協議会名: 上三川町地域公共交通会議

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
関東交通株式会社	上三川町デマンド交通	<ul style="list-style-type: none"> ・持続可能な交通を確立するため、次期運行契約時の仕様について、利便性向上による収入増加だけでなく費用の見直しも含めた、より収支率に着目した仕様となるよう内部での協議を進めている。 ・地域の要望に応えるため、現在のデマンド交通では直接向かうことの出来ない施設への移動手段について、近隣市町と連携して各市町の既存デマンド交通の相互利用について検討を進めている。 ・昨年度から実施した期間限定お試し利用券の配布による利用促進は対象範囲を中学生まで広げ、(小・中学生、敬老会配布)新規利用者・登録者だけでなく、再利用者の促進に繋がった。(H29:小学生12名、高齢者28名⇒H30:小学生11名、中学生7名、高齢者38名) ・町ホームページの更新に併せ、デマンド交通の乗り方をイラストで説明するページを作成し、分かりやすさ向上に繋がった。 ・来庁及びFAXのみであった利用登録方法に電話による利用登録を追加し、利用までのハードルを下げ利用促進を図った。 	<p>A 事業が計画的に位置づけられたとおり、適切に実施された。</p>	<p>B 事業が計画に位置付けられた目標を一部達成できていない点があった。</p> <p>【未達項目】 目標:一日あたり75人分の移動手段を確保する。 ↓ 実績:一日あたり58.3人</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者増加のために、混雑時間帯(お断りが多く発生する時間帯)の運行方法改善に向けて検討を進める。 ・年末年始や大型連休など通常と予約が異なる期間の周知を目立つように実施し、期間前後の利用者減少しないよう対策を実施する。併せて、デマンド交通のPRにも繋げる。 ・広報やホームページでの一方的な周知だけではなく、各地域で開催されるイベントで時間をもらい、その場でデマンド交通利用に対する疑問や不安が解消できるよう、今後も出張登録申請受付や出前講座を開催する。 ・さらなる広告収入の確保により、収支率が向上させるため、今後も広告の確保に努める。 ・アンケート内容を見直し、利用者の意見をさらに深掘りすることで、より良い事業内容の見直しを行なう。

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

平成31年1月25日

協議会名:	上三川町地域公共交通会議
評価対象事業名:	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>マイカーの普及等により公共交通の利用者が減少している一方で、高齢者等の中には、通院や買い物などの移動手段として公共交通を必要としている町民も存在する。</p> <p>今後、高齢化社会の進展により、公共交通に対する要望も増加、多様化することが想定され、公共交通の充実を求める町民ニーズへ対応するための取り組みが求められている。</p> <p>このような中、利用者が低迷していた定時定路線の町の巡回バスを平成25年2月末で終了し、3月からは、より町の実態に即した長期的で持続可能な地域公共交通としてデマンド交通の運行を実施している。</p>